

# 全国学力・学習状況調査の概要

平成26年度全国学力・学習状況調査は、平成25年度に引き続き、全小中学校を対象に実施されたものです。

藤井寺市教育委員会では、本調査について次のように考え、取り組んでまいります。

本調査の目的は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立て、さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することです。その調査結果は、あくまでも学校における教育活動の一側面を示すものであり、本調査により測定できるのは、特定の学力の一部であると考えます。競争や順位の位置づけを目的とするものではありません。調査結果については、子どもたちの学力の実態や、生活習慣を含めた学習状況、またそれら相互の関連を分析し、教育課題を明確にした上で、教育及び教育施策の改善を図ってまいります。特に学校現場においては、児童・生徒への指導や学習状況の改善等に役立ててまいります。

結果の公表については、保護者・市民の皆様に、学校教育及び家庭教育についての理解と協力を得ることが何よりも大切であると考え、本市・大阪府・全国を比較する形で、教科・区分別の平均正答率、学力の背景にもなっている生活アンケート結果及び今回の調査を分析する中で見られる本市児童・生徒の好ましい傾向と今後の教育課題についてお示しさせていただきます。

なお、学校別の平均正答率の公表については、序列化や過度な競争につながるおそれがあるため、これまで同様に行わないものとします。

## (1) 調査の実施概要

① 実施日 平成26年4月22日(火)

② 実施学年及び対象者数

対象	藤井寺市		大阪府		全国	
	学校数	対象者数	学校数	対象者数	学校数	対象者数
小学校6年生	7校	538人	1,009校	74,920人	20,510校	1,130,302人
中学校3年生	3校	558人	467校	70,535人	10,649校	1,168,528人

③ 実施内容

【小学校】	国語A(知識)	国語B(活用)
	算数A(知識)	算数B(活用)
	質問紙調査(児童質問紙)	
【中学校】	国語A(知識)	国語B(活用)
	数学A(知識)	数学B(活用)
	質問紙調査(生徒質問紙)	

## (2) 調査結果

### 教科・区分別平均正答率

教科	小学校(6年生)				中学校(3年生)			
	国語		算数		国語		数学	
	A	B	A	B	A	B	A	B
藤井寺市	69.6	50.3	76.8	55.2	73.9	42.9	60.9	50.9
大阪府	70.7	52.6	77.3	56.3	77.0	47.2	65.0	56.9
全国	72.9	55.5	78.1	58.2	79.4	51.0	67.4	59.8

学校別の平均正答率などについては、序列化や過度な競争を生じるおそれがあるため、これまで同様公表いたしません。

### 小学校について

※百分率は全て正答率を表す

○国語A(「知識」に関する問題)は69.6%で、国語B(「活用」に関する問題)は50.3%でした。「漢字の読み書き」(平均81.4%)や、「文のつながりを捉え適切なものを選択する」(78.1%)はできています。特に「漢字の読み書き」については、昨年度より約14%高く、改善が見られます。しかし、「立場を明確にして意見を述べる」(19.3%)、「情報や自分の考えを整理しまとめて書く」(22.7%)、「2つの詩を比べ自分の考えを書く」(39.8%)では、資料の内容を読み取り、与えられた条件や質問の意図を捉え、自分の考えを書くことに課題が見られました。

○算数A(「知識」に関する問題)は76.8%で、算数B(「活用」に関する問題)は55.2%でした。「基礎的な計算」(平均87.4%)についてはできており、その中でも「小数の計算」(77.9%)では昨年度より約12%高く、改善が見られます。しかし、「量の大小を判断し理由を書く」(28.6%)、「割合の意味を活用し、数量関係を考える」(24%)では、数量関係を理解し活用すること、さらに式や言葉を使って論理的に説明することに課題が見られました。

### 中学校について

○国語A(「知識」に関する問題)は、73.9%で、国語B(「活用」に関する問題)は42.9%でした。「語句の意味理解」(平均80.9%)や「漢字の読み書き」(平均71.8%)はできています。しかし、「根拠を明確にして自分の考えを書く」(30.9%)や、「適切な情報を得て自分の考えをまとめる」(20.1%)、「知識や体験と関連付けて自分の考えを明確に書く」(31.7%)では、文章や資料から必要な情報を取り出し、伝えたい事柄や根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題が見られました。

○数学A(「知識」に関する問題)は、60.9%で、数学B(「活用」に関する問題)は、50.9%でした。「文字式を含む基礎的な計算」(平均79.3%)や、図形については「線対称」(90.7%)、「平行と垂直の関係」(平均80.2%)と基本的な理解ができています。しかし、「証明問題」(14.5%)や「相対度数を求める」(平均37.7%)では無解答率も35.9%・29.4%と高く、数学の基礎用語を理解し、論理的に説明したり問題を解決したりすることに課題が見られました。